

平成 25 年度の大型クラゲ出現状況

(有害生物出現調査並びに有害生物出現情報収集・解析及び情報提供事業)

森脇和也・安木 茂

1. 大型クラゲ沖合域分布調査

(1) 調査方法

2013年7月30日－8月2日(7月調査)および8月19日－22日(8月調査)に、調査船「島根丸」によりLCネットを使用してエチゼンクラゲを採集した。また、ブリッジから目視調査を行った。

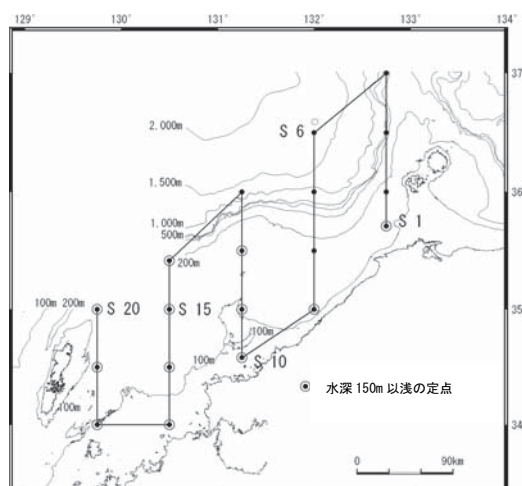


図1 洋上分布調査定点(丸は水深150m以浅)

調査定点は図1のとおりである。調査に用いたLCネットは網口の幅×高さが10m×10mで、調査海域の水深によって分布層が異なると思われるため、下記のとおり水深によって曳網方法を変更した。

- 水深が150mよりも深い場合はLCネットを水深50mまで沈め、水深が150mよりも浅い場合はおおむね海底から20m上まで沈める。
- LCネットを予定水深まで沈めた後、ワープの繰り出しをストップし、1分間斜め曳きをする。
- 揚網はワープの巻き上げ速度を毎秒0.3m、船速を2-2.5ノットで行う。

(2) 結果

採集結果は付表1(添付資料)に示した。

7月の調査ではLCネット採集で7個体、8

月の調査では同じくLCネット採集で2個体の計9個体の大型クラゲが確認された。目視調査では確認されなかった。

2. 洋上目視調査

(1) 調査方法

① 調査船「島根丸」

船上から目視による観察を行なうとともに、水温、塩分等の海洋観測を実施した。調査は7月に1回実施した。調査定点は図2のNo.16-No.20である。計数は、各定点から2マイルの距離を航走する間、船橋上両舷から目視されたエチゼンクラゲを大(傘径100cm以上)、中(傘径50-100cm未満)小(傘径50cm未満)のサイズ別に行った。

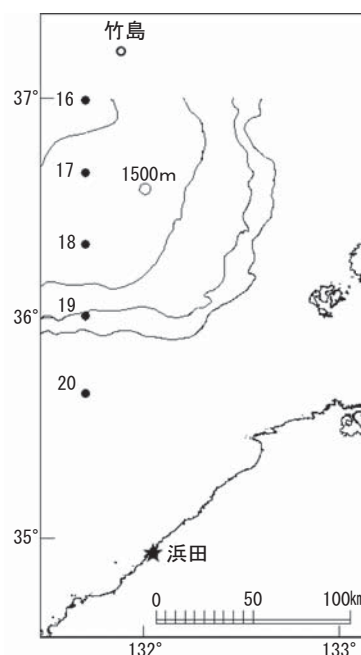


図2 島根丸洋上目視調査定点

② 漁業取締船「せいふう」

船上から目視観察を行った。調査は8月-12月の間、定点を決めず県内海域において昼間に実施した。計数は航行中船橋上両舷から目視されたエチゼンクラゲを大(傘径100cm以上)、

中(傘径50-100cm未満)小(傘径50cm未満)のサイズ別に行った。

(2) 結果

目視観察結果を付表2(添付資料)に示した。

「島根丸」および「せいふう」による調査では全く目視確認できなかった。

3. 陸上調査

(1) 調査方法

漁業協同組合JFしまねからの来遊状況の聞き取り調査および標本船調査を実施した。

聞き取り調査は、2013年8月-12月の間、各JFしまねへ直接、もしくは各水産事務所を介して電話により情報を収集した。

標本船調査は、定置網漁業4ヶ統(浜田市、江津市、出雲市、西ノ島町)、沖合底びき網7船団(本県に所属する全船団)に8月から12月まで、小型底びき網漁業3隻(浜田市1隻、大田市1隻、出雲市1隻)に9月から12月までの期間とした(図3)。それぞれの船に操業ごとの入網数(底びき網漁業は操業位置および入網数)、大きさ、被害状況、対策実施の有無について野帳記入を依頼した。

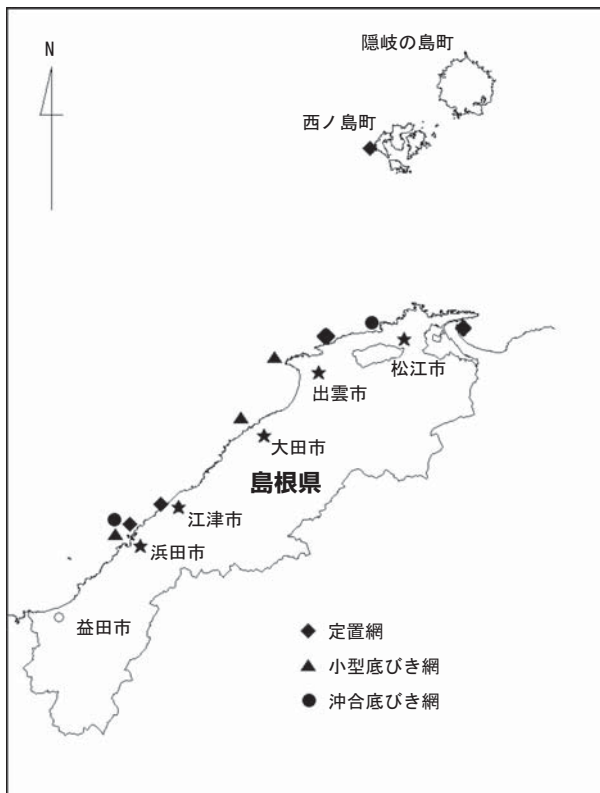


図3 標本船所属地

(2) 結果

聞き取り調査および標本船調査の結果をそれぞれ付表3-6(添付資料)に示した。

平成25年度はエチゼンクラゲの確認数は昨年より少なく、大きな漁業被害はなかった。

① 定置網漁業標本船

エチゼンクラゲの旬別入網状況を図4に示した。8月上旬に入網が始まり、隠岐では8月下旬-9月上旬と9月下旬、石見では9月中旬-10月上旬に入網数が増加した。その後は減少し、10月下旬にはほぼ収束した。昨年に比べ入網数は少なく、合計で256個体が入網があったが大きな漁業被害の報告はなかった。

② 小型底びき網漁業標本船

エチゼンクラゲの旬別入網状況を図5に示した。9月上旬から入網が始まり、9月中旬にはピークを迎え、最大で1曳網当たり10個体程度入網した。その後は徐々に減少し、11月中旬にはほぼ終息した。合計で570個体が入網があったが大きな漁業被害の報告はなかった。

③ 沖合底びき網漁業標本船

エチゼンクラゲの旬別入網状況を図6に示した。調査開始当初から890・900・981・991農林漁区(農林漁区については付表7(添付資料)を参照)で入網があり、この時期がピークとなった。最大で1曳網当たり20個程度入網した。その後は徐々に減少し、10月中旬~11月上旬に再び増加したものの、11月下旬にはほぼ収束した。合計で5,201個体が入網があったが大きな漁業被害の報告はなかった。

なお、標本船調査・聞き取り調査の結果は大型クラゲ被害防止緊急総合対策事業においてJAFICが実施している大型クラゲ出現情報にデータとして提供した。また、大型クラゲ情報としてFAXと水産技術センターホームページ上で情報提供を行なった。

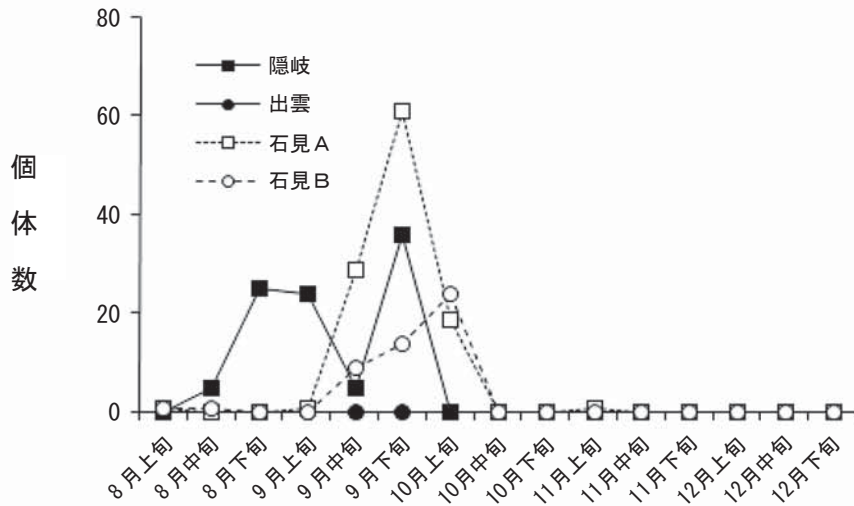


図4 定置網漁業標本船のエチゼンクラゲ旬別入網個体数

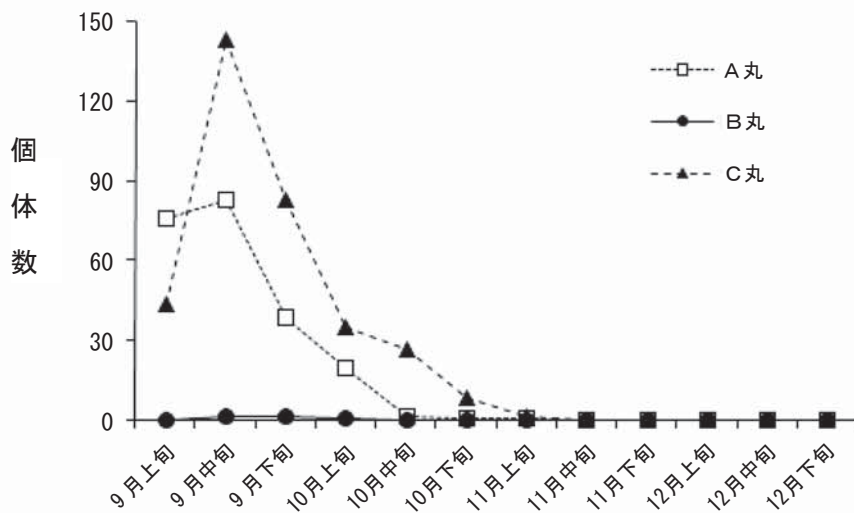


図5 小型底びき網標本船のエチゼンクラゲ旬別入網個体数

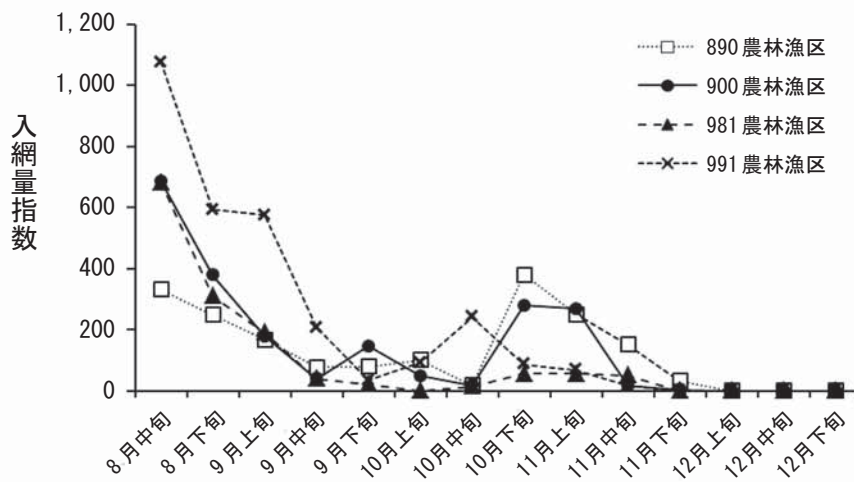


図6 沖合底びき網標本船のエチゼンクラゲ旬別入網量指数
 入網量指数 = (漁区別入網数 / 漁区別操業回数) × 100

4. 総括

平成 25 年度の目視情報・入網情報による大型クラゲ来遊量及び漁業被害は前年より少なく、近年来遊量の最も多かった平成 21 年度を大きく下回った。今年度当初は、7月上旬の東シナ海や九州北部海域における目撃・入網情報などから、日本海への来遊は前年並みになると予測された。しかし、来遊経路が沖合域に形成されたと考えられたため島根県沿岸域への来遊は少なく、漁業被害もほとんど見られなかった。

JAFIC の情報提供や日本海区水産研究所の報告等によると、平成 25 年度の特徴として、前年より日本海北部での目撃・入網情報が多かった。